

第 19 回 観光立国推進閣僚会議 議事要旨

日時: 令和 5 年 3 月 31 日(金) 8:45~8:55

場所: 官邸 4 階大会議室

出席: 岸田内閣総理大臣、松野内閣官房長官、齊藤国土交通大臣、高市経済安全保障担当大臣、林外務大臣、渡辺復興大臣、松本総務大臣、西村経済産業大臣、谷国家公安委員会委員長、永岡文部科学大臣、岡田内閣府特命担当大臣(地方創生)、西村環境大臣、浜田防衛大臣、藤丸内閣府副大臣、和田内閣府副大臣、大串デジタル副大臣、井上財務副大臣、伊佐厚生労働副大臣、高見法務大臣政務官、藤木農林水産大臣政務官、木原内閣官房副長官、磯崎内閣官房副長官、栗生内閣官房副長官、藤井内閣官房副長官補、佐々木内閣官房内閣審議官(内閣官房副長官補付)、和田国土交通省観光庁長官、菟川内閣官房内閣審議官(内閣官房副長官補付)兼国土交通省観光庁次長

○齊藤国土交通大臣より冒頭発言

- ・ただ今から、「観光立国推進閣僚会議」の第 19 回会合を開催する。
- ・今回の閣僚会議では、昨年 10 月の第 16 回会合において岸田内閣総理大臣から策定の指示があった「観光立国推進基本計画」について、案がまとまったので、報告する。

○齊藤国土交通大臣より「観光立国推進基本計画(案)について」(資料1)について説明

- ・1ページ目、新たな「観光立国推進基本計画」は、2023 年度から 25 年度までの3か年で、コロナ禍からの回復を目指すもの。なお、「明日の日本を支える観光ビジョン」において定められた、2030 年インバウンド 6,000 万人等の目標は、今回は変更しない。
- ・2ページ目、今回の計画は、コロナ禍による変化やコロナ禍前からの課題を踏まえ、我が国の観光を持続可能な形で復活させる計画としている。大阪・関西万博も開催される 2025 年に向け、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、全国津々浦々に観光の恩恵を行きわたらせるため、「持続可能な観光地域づくり戦略」「インバウンド回復戦略」「国内交流拡大戦略」という3つの戦略に取り組むこととする。これらを通じて、観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性の向上、地域の交流人口・関係人口の拡大がコロナ禍前よりも進んだ形で、観光を復活させたいと考えている。
- ・3ページ目、今申し上げた基本的な方針を踏まえつつ、今回の基本計画では、新たに質の向上を強調する目標を設定する。具体的には、2025 年に、4つ目の項目にある「訪日外国人旅行者数」をコロナ禍前の 2019 年の水準超えとすることを旨とするともに、2つ目の項目にある「1人当たり旅行消費額」を、コロナ禍前より 25%増の 20 万円とすることなどにより、早期にインバウンドの旅行消費額5兆円の達成を目指していく。
- ・4ページ目、目標の達成に向けて、全国津々浦々で観光回復の起爆剤となる取組を集中的に展開していく。資料に記載しているとおり、我が国の自然・文化の魅力を活かした特別な体験の提供や、世界的なイベント等とも連携した誘客の取組を推進する。今回の基本計画に基づき、関係省庁の施策を総動員して、持続可能な形で観光立国の復活に向けて、様々な取組

を力強く進めていく。

○意見交換

(永岡文部科学大臣)

- ・2025 年大阪・関西万博を見据え、日本の美と心を国内外に発信する「日本博 2.0」のほか、美術館・博物館等の夜間開館、三の丸尚蔵館の充実や地域ゆかりの文化財の地方展開などをはじめ、文化資源を活用した観光振興のための取組を進める。
- ・今後開催される大規模な国際スポーツ大会等のイベントが誘客に資するよう取り組むとともに、合宿・キャンプの誘致、各地域の文化資源・自然資源を活用したスポーツツーリズムを推進する。
- ・本基本計画も踏まえ、関係省庁とも連携して、訪日外国人旅行者数の回復や、地方への誘客に貢献し、地域活性化を実現していく。

(西村環境大臣)

- ・国立公園において、美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光や、アドベンチャーツーリズムなどの持続可能な観光の推進を図る。
- ・そのため、民間提案を取り入れた、利用拠点の面的な魅力向上に取り組み、宿泊とアクティビティが一体となった質の高い利用を官民連携により推進する。
- ・新宿御苑や皇居外苑など、旧皇室苑地としての歴史的・文化的な価値を有する国民公園において、来園者の利便性・安全性の確保や情報発信等の充実など、一層の魅力向上に取り組む。

(斉藤国土交通大臣)

- ・国土交通省としても、観光庁が中心となって、関係省庁と連携しながら、各種の取組を着実に進めていく。
- ・本日議題としていた、「観光立国推進基本計画」の案について、「観光立国推進閣僚会議」として了承したいと思うが、ご異議はないか。
　　<異議なしの声>
- ・ありがとうございます。最後に、岸田内閣総理大臣からご挨拶を頂く。

○岸田内閣総理大臣より発言

- ・観光は、成長戦略の柱、地域活性化の切り札であり、また、国民生活の安定向上や国際相互理解の増進にも寄与するものである。
- ・各大臣におかれては、ただ今了承した、新たな「観光立国推進基本計画」に沿って、「持続可能な観光地域づくり戦略」「インバウンド回復戦略」「国内交流拡大戦略」の3つの戦略を推進していただきたい。
- ・その際、外国人旅行者の国内需要5兆円、国内旅行需要 20 兆円という目標の早期達成に続き、以下の KPI に基づき、2025 年に向けて観光のV字回復を図っていく。
- ・高付加価値化を進め、外国人旅行者1人当たりの旅行消費額を、コロナ前から25%増の20万円とし、地方部における宿泊数を、コロナ前から50%増となる2泊に増やすことを目指す。
- ・外国人旅行者数については、当面の目標として、コロナ前の2019年水準を超えることを目指す。

す。

- ・国内旅行については、地方部を中心に交流を拡大させ、消費額の2030年目標を前倒しで達成することを目指す。
- ・観光需要を効果的・持続的に根づかせるには、ビジネスや学術分野など、広い分野で取組を深化させる必要があり、地方、デジタル、環境といった切り口が重要。こうした観点を取り入れ、今回の計画に基づいたインバウンド拡大を図る、新時代にふさわしい「アクションプラン」を、6月の骨太方針までに、策定していただきたい。
- ・活力に満ちた地域社会の実現に向け、観光が地域の社会・経済に好循環を生む「持続可能な観光地域づくり」を全国各地で推進し、持続可能な経済社会をつくり上げるよう、国土交通大臣を中心に、各大臣がそれぞれの立場から力を尽くし、新たな計画に基づき、政府一体・官民一丸となって取り組んでいただきたい。

○齊藤国土交通大臣より閉会挨拶

- ・本日の第19回会議はここで閉会とする。なお、本日の議事については、後日、要旨を公開することを予定している。
- ・本日の会議については、この後、観光庁の事務方より、記者ブリーフィングを行うこととしている。

以上